# 第 10 回おかやま環境教育ミーティング
# 実施報告書

2024 年 3 月

かんきょうひろば事務局

## １．概要

・日　時：2023 年 8 月 8 日（火）　10:00～17:00

・会　場：岡山コンベンションセンター

（1F イベントホール、3F コンベンションホール、301・302 会議室、401～407 会議室）

・ブース出展：54 団体

・進行役：大森哉絵 氏（NPO 法人だっぴ　コーディネーター）

・参加者：298 名（一般参加者 286 名、実行委員 12 名、スタッフ 12 名）

※スタッフに進行 1 名、カメラマン 1 名を含む

※参加者数にスタッフは除く

・満足度：90.7 点

参加者の年代、所属参加したきっかけ、これまでの参加回数は以下の通りであった（図 1～図 4）。

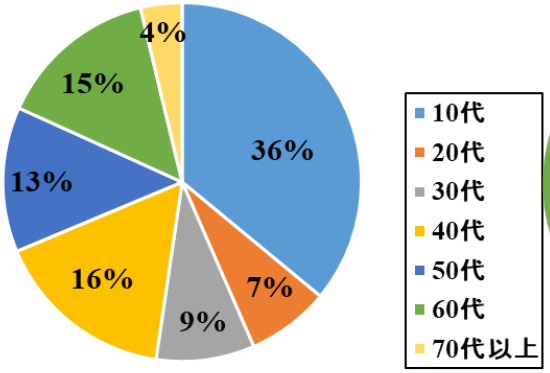



図 1.　参加者の年代（回答数 214）

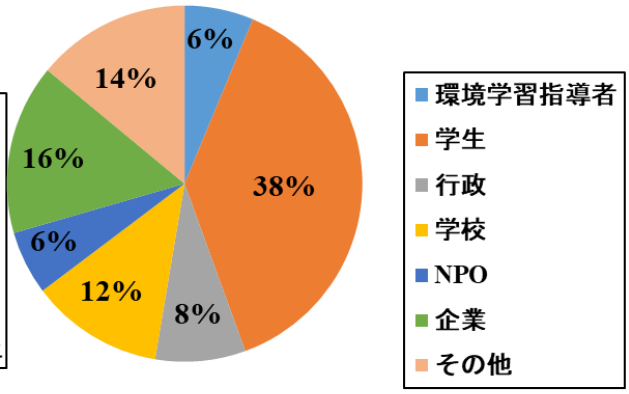



図 2.　参加者の所属（回答数 207）※複数選択あり

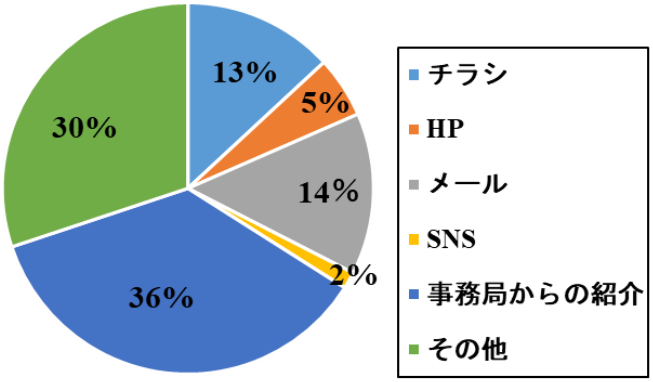



図 3.　参加したきっかけ（回答数 206）※複数選択あり

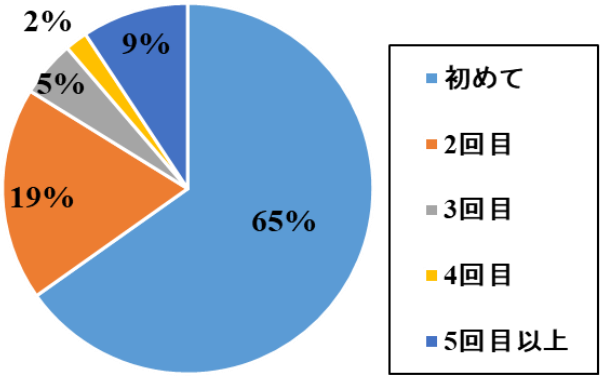



図 4.　参加者のこれまでの参加回数（回答数 207）

## ２．全体スケジュール

9：30　受付開始

10：00　開会挨拶および事務局説明

・おかやま環境教育ミーティング実行委員会 委員長 江國友哉

・かんきょうひろば事務局

（かんきょうひろば、スケジュール、開催目的の説明）

10：15 オリエンテーション

・NPO 法人だっぴ　コーディネーター　大森哉絵　氏

（今の気持ちと今日持ち帰りたいものなどを確認）

10：30　ブース展示

・活動紹介・自由交流（54 団体）

・ブースツアー（6 ツアー、20 分／ツアー）

12：30　昼休み

13：30　分科会

・分科会ごとに分かれて事例発表、体験活動、話し合いなど（11 分科会）

15：00　移動・休憩

15：15　全体会

・NPO 法人だっぴ　コーディネーター　大森哉絵　氏

・ふりかえり、わかちあい

16：45　閉会挨拶

・おかやま環境教育ミーティング実行委員会 副委員長 林美帆

・アンケート記入

## ３．内容

### 10:00　開会宣言　（おかやま環境教育ミーティング実行委員会 委員長 江國友哉）

・先週から台風が近づいており、本日は開催できるか心配していた。今回、天候に恵まれて開催できることを嬉しく思う。

・おかやま環境教育ミーティングは、これまでたくさんの方に支えていただいた。そして今回、節目となる第 10 回おかやま環境教育ミーティングを無事に開催することができた。皆さまに感謝申し上げる。

・まず、これまでの参加回数について、参加者の皆さまへ質問したい。「はじめて」、「2〜5 回」、「6 回以上」、自分が該当するものいずれかに挙手をお願いしたい（※参加者は、委員長の問いかけに対して、自分が該当するものに挙手をした）

・「初参加の人」は 8 割超え、中には「全て参加している人」の挙手もあり驚いている。

・今回のミーティングにおいて、私たちが最も大切にしていることは、この場が次の 10 年へのキックオフになること。

・これまで本ミーティングを開催してきたが、まだまだ解決していかなければいけない問題、課題があり、これらに対して自分たちにできることが多数あることからも、今回は「次の 10 年へ向けたキックオフ」を合言葉にしている。

・このミーティングを通じて、お互いのことを知り合い、学び合い、つながり合い、これからの行動のきっかけを得てもらうことが今回の一番のゴールである。

・今日は、参加者一人一人が主役であり、自分自身が主役となって、たくさんのことを得て持ち帰り、明日からの行動にぜひ活かして欲しい。

### 10:05　オリエンテーション、かんきょうひろばの説明　（事務局）

**・本日のスケジュール、会場**

**・開催趣旨**

**・かんきょうひろばについて**

・おかやま環境教育ミーティングは、今回の開催が 10 回目となる。

・ねらいは、様々な世代や関係性を超えてつながる場、学び合いや高め合う場、そして協働が生まれる場としており、これらが SDGs 達成に通ずるものとして考えている。

・本ミーティングは、かんきょうひろば（岡山県環境学習協働推進広場）が企画している。かんきょうひろばとは、行政、企業、学校、NPO、地域の団体などが、環境分野における問題や課題に対して、総合的かつ効果的に、協働して取り組んでいくことを目的として設置されている（岡山県事業）。

・本事業では、主に環境学習出前講座の実施、環境学習指導者（出前講座講師）の養成、交流する場を企画し実施している。

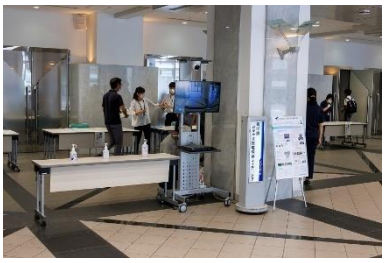
・かんきょうひろばでは、持続可能な社会の実現を目指しており、行動できる人材を増やしていきたいと考えている。

・環境問題の解決において、現在は「行動できる人材」だけでなく、「解決できる人材」が求められている。おかやま環境教育ミーティングは、SDGs 達成に向けて、その人材を育む場や協働を生み出す場にしていきたいと考えている。

・SDGs は、2030 年までに達成する目標ではあるが、参加者の皆さまには、岡山の 10 年後を想像し

ながら、今どんな問題や課題があるのか、これらが解決されている必要があるかをぜひ意識して欲しい。

・ブース出展では、各団体が取り組む問題や課題を掲示していただくようお願いしている。参加者の皆さんには、ぜひここも見ていただきたい。

<table>
<tr><td> </td><td>  </td><td> </td></tr>
<tr><td>スタッフミーティング</td><td>会場準備<br>（1F ロビー）</td><td>会場準備<br>（1F イベントホール）</td></tr>
<tr><td colspan="2"> </td><td> </td></tr>
<tr><td colspan="2">会場準備<br>（3F コンベンションホール）</td><td>受付開始</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>司会　林副委員長</td><td>開会宣言及び趣旨説明<br>江國委員長</td><td>かんきょうひろば<br>説明</td></tr>
</table>

**10:15　オリエンテーション　（NPO 法人だっぴ　コーディネーター　大森哉絵）**

・参加にあたってのチェックイン。

・自身の体調や今の気持ち、期待度などをジェスチャーで表現。

・参加者同士で簡単な自己紹介。

・最後に参加する上で少しでも楽しく、また主体的な学びを得るための心構えを共有。

図 5. オリエンテーション進行スライド　一覧

オリエンテーション

**10:30　ブース展示（54 団体が出展）**

・自由交流の場としてブース展示を行った。各出展者の活動紹介や実際に体験できるブースもあり、参者同士がつながる場として大いに盛り上がった。

・昨年に引き続き、ブース出展団体や参加者の交流を促すため、ブースツアーを実施した。6 人のコーディネーターが、約 20 分程度かけてブース案内を行った。

・今回、新たな試みとして「団体が取り組む問題や課題」を掲示していただいた。

表 1　ブース出展団体一覧（54 団体）

| | |
|---|---|
| 1 | 岡山県立玉野高等学校 |
| 2 | おかとと |
| 3 | 岡山市立操南中学校 |
| 4 | 明和製紙原料株式会社 |
| 5 | 岡山県立岡山東商業高校 |
| 6 | 認定 NPO 法人おかやまエネルギーの未来を考える会 |
| 7 | 岡山高等学校コメ作り×エシカル消費プロジェクト |
| 8 | 自然体験リーダーズクラブ |
| 9 | ノートルダム清心学園 清心中学校・清心女子高等学校 |
| 10 | 瀬戸内アクセサリー彩 |
| 11 | NPO 法人エコネットワーク津山 |
| 12 | JICA 中国 |
| 13 | 藤クリーン株式会社 |
| 14 | 岡山大学環境部 ECOLO |
| 15 | 岡山県生涯学習センター人と科学の未来館サイピア |
| 16 | ふくしまボランティア岡山隊 |
| 17 | 株式会社西日本アチューマットクリーン |
| 18 | 矢掛町山の上干し柿祭り「雲の上カフェ」運営チーム |
| 19 | グリーンコープ生協おかやま |
| 20 | たましま 干潟と鳥の会 |
| 21 | 金光学園中学・高等学校 |
| 22 | おかやまミツバチプロジェクト桃太郎ハニーラボ（丸田産業株式会社） |
| 23 | 公益財団法人　水島地域環境再生財団　「海ボウズプロジェクト」 |
| 24 | 岡山 ESD 推進協議会 |
| 25 | NPO 法人グリーンパートナーおかやま |

| | |
|---|---|
| 26 | 岡山県森林インストラクター会 |
| 27 | 岡山県立水島工業高等学校 |
| 28 | 環境省/中国四国環境事務所<br>中国環境パートナーシップオフィス<br>四国環境パートナーシップオフィス |
| 29 | 釣り人みんなで、ごみ拾い |
| 30 | おかやまエコマインドネットワーク |
| 31 | イオンリテール株式会社中四国カンパニー |
| 32 | 岡山学芸館高等学校 |
| 33 | 西川・枝川用水をきれいにし隊 |
| 34 | 岡山県立倉敷鷲羽高等学校 |
| 35 | 株式会社サンキョウーエンビックス |
| 36 | 一般社団法人チカク（子ども防災ネットワークおかやま） |
| 37 | 岡山理科大学附属高等学校科学部 |
| 38 | 私の学校準備室 Kodona |
| 39 | 岡山ガス株式会社 |
| 40 | IG 岡山ランナーズ |
| 41 | 倉敷イオンチアーズクラブ　マスカット隊 |
| 42 | 株式会社 the continue. |
| 43 | 公益財団法人おかやま環境ネットワーク |
| 44 | あさくち（さとしょう）de eco る課！！ |
| 45 | せとうち花倶楽部 |
| 46 | 岡山大学教育学部附属中学校 |
| 47 | 赤磐市野生動植物調査会 |
| 48 | 岡山県立笠岡高等学校 |
| 49 | NPO 法人　国際協力研究所・岡山（ICOI） |
| 50 | 岡山県立水島工業高等学校（化学部） |
| 51 | 株式会社あかりカンパニー |
| 52 | 岡山県立瀬戸南高等学校 |
| 53 | NPO 法人岡山市子どもセンター |
| 54 | with FASHION co. |

■ブース展示会場　配置図

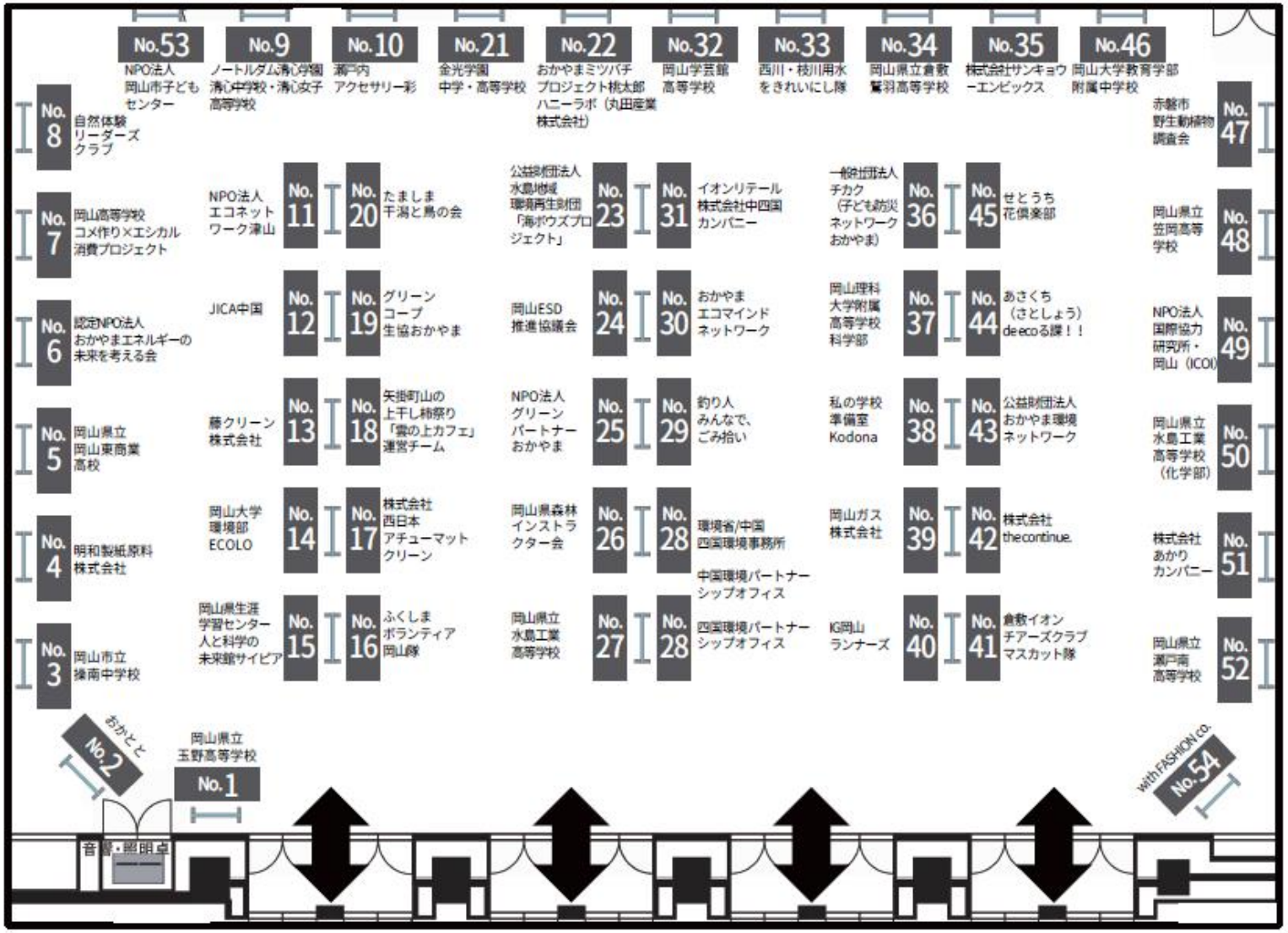



図 6. ブース出展者　配置図

ブース展示

**12:30　昼休み**

**13:30　分科会**

・分科会は、11 のテーマに分かれて実施した。

1. 干潟って知ってる？　～意外と身近な希少生物の宝庫？！～
2. チリメンモンスターから学ぼう！里海・里山＆SDGs
3. 子どもと大人の SDGs 学習ゲーム「Get The Point」体験会
4. 環境と健康と公害から well-being を考えよう
5. 気候変動危機、あと 7 年がタイムリミット！ 自然エネルギーで安全な未来を創ろう!!
6. 気候変動の謎を解き明かそう！～岡山県版気候変動のミステリー～
7. 環境 × 国際協力 × 自分
8. もしも自然災害が起きたらどうするか？　被災者のためにできることを考えよう。
9. 海ゴミの解決に向けての取組み　～子どもたちの思いを広げていくために～
10. 瀬戸内海で何が？　～魚を通して瀬戸内海を考える～
11. 環境教育…　これまでの 10 年　これからの 10 年

・各分科会は、第 10 回おかやま環境教育ミーティング実行委員を中心に、依頼した講師やファシリテーターと企画・運営を担った。

・分科会の内容として、SDGs のカードゲーム体験、ちりめんじゃこの分類、水産物資源を通じて瀬戸内海を考える、これまでの環境教育のふりかえる分科会など多岐にわたる分科会で構成され、それぞれで活発な交流が行われ、楽しみながら学び合うことができた。

・今回の分科会では「岡山」に関する要素が入るよう企画を行なった。参加者は、岡山での取り組みや岡山県内・岡山近辺で起きている問題、課題を知り、考え、振り返りなどを通じて、私たちの身近で起きている環境問題や取り組みについて考える機会になったと思われる。

**1．干潟って知ってる？ ～意外と身近な希少生物の宝庫？！～**　　参加人数 12 人

【講　師】

・東川洸二郎 氏（笠岡市立カブトガニ博物館）

・西井弥生 氏（たましま干潟と鳥の会）

【進　行】

・松本英子 氏（自然体験リーダーズクラブ）

【概　要】

・潮の満ち引きで現れ、川と海の間にある干潟は、独自の生態系と特別な役割を持っている。

・また、そんな干潟は意外と身近な場所にあり、そこは希少な生物の生息地でもある。

・カブトガニや渡り鳥といった生き物を通して、干潟の現状を考えた。

【内　容】

１．干潟の役割と現状、渡り鳥について　＜西井弥生氏＞

２．笠岡湾干拓とカブトガニの生態について　＜東川洸二郎氏＞

３．休憩、カブトガニ（剝製）触れ合いタイム

４．質疑応答、まとめ

【まとめ】

・少人数だったので、参加者と講師の距離が近くて話が聞いてもらいやすかった。

・参加者は学生が多く、発言は控えめだったが、話を熱心に聞いてくれた。

・大人の参加者は積極的に発言してくれたので、多世代の参加者がいた方がバランスがよかった。

・何より東川さんの解説を聞きながら、本物のカブトガニに触れてもらえたことがとてもよかった。

・西井さんの渡り鳥を守りたいという個人の思いが、活動の原点になっていることも知ってもらえてよかった。

【記録担当者】

・松本英子（自然体験リーダーズクラブ）

## ２. チリメンモンスターから学ぼう！ 里海・里山＆SDGs　　参加人数 30 人

【講　師】

・藤田学 氏（岡山県立玉野高等学校）

【概　要】

・前半は、牛窓近海で捕れたチリメンジャコの中に混ざっている様々な生き物「チリメンモンスター」を分類・観察した。

・後半は玉野市で捕れた乾燥ウミホタルの発光実験を行い、参加者は瀬戸内海の豊かな生態系を実感した。

【内　容】

１．講師紹介・海の生き物クイズ

２．グループでの自己紹介

３．チリメンモンスターを探そう！

４．分類したチリメンモンスターを使って標本づくり

５．ウミホタルの発光実験

【まとめ】

・参加者の約半数が以前にもチリメンモンスター探しを経験したことがあり、冒頭のクイズにも的確に解答していた。

・ピンセットを駆使して、各々が集中して分類している姿が印象的だった。

・見つかったチリメンモンスターから瀬戸内海の特徴を考察し、共有した。

・ウミホタルの発光実験では、青白く光る様子に歓声が上がった。

【記録担当者】

・正富拓巳（下関市立大学学生）

## ３．子どもと大人の SDGs 学習ゲーム「Get The Point」体験会　　参加人数 26 人

【講　師】

・長門正憲 氏（岡山ガス株式会社）

【概　要】

・日本で開発され 2020 年 5 月から市販開始された SDGs 学習ゲーム「Get The Point」を体験した。

・ゲームの 1 回目は「奪い合い競争する世界」を，2 回目は「持続させるために協力する世界」を体験し，感想を交流しあった。

【内　容】

１．オリエンテーション

２．参加者・話題提供者の自己紹介

３．「Get The Point」体験会

４．グループ内で感想や疑問を共有・発表

５．まとめ

【まとめ】

・参加者の感想を見ると，「自分のことだけでなく，みんなのことを考えた方が資源は残るし，ポイントも高くなるのですごいと思った」や，「目標が変わると周囲との協力が生まれて，まったく違う世界になると感じた」というものが多数見られ，このカードゲームの学習効果の高さを実感した。

【記録担当者】

・三木淳男（人と科学の未来館「サイピア」）

## ４．環境と健康と公害から well-being を考えよう　　参加人数 14 人

【講　師】

・安井豊 氏（特定非営利活動法人　国際協力研究所・岡山（NPO ICOI））

・林美帆 氏（公益財団法人水島地域環境再生財団）

【概　要】

・林氏からは、肺年齢測定、倉敷市水島地区の公害の話を通じて、環境と健康の両方が満たされていることが well-being につながり、そのためには権利ベースのアプローチが必要ではないか、と話題提供があった。

・安井氏からは、理学療法士の視点から「残存機能を活かし、できるを探したことで well-being につながった、ある高齢者の事例」をお話いただき、well-being とは三方よし（売り手よし、買い手よし、世間よし）ということなのではないか、と話題提供があった。

・２人の話を踏まえ、「自分にとって well-being とは何なのか」、「そのために必要なものは何か」、「環境と私たちの幸せとの関わり」について意見を出し合い、考えを深めた。

【内　容】

１．はじめに～肺年齢測定～

２．話題提供者　林氏による公害の話

３．話題提供者　安井氏による福祉の話

４．グループで考えよう「well-being とは何か」

・自己紹介

・お２人の話を受けて～感想の共有～

・「私にとっての well-being」、「well-being のために必要なもの」を挙げて模造紙にまとめる

５．全体で共有

６．おわりに～話題提供者のお２人から～

【まとめ】

・「well-being とは何か」という問いに対して、参加者からは「田舎と町との循環の中で成立するもの（生産者と事業者と消費者、安全で安心する生活、環境とゴミの問題等）」、「人によって幸せは違う。だからこそ、自分はどうなのかを考えることが大事。」、「自分と他者、経済発展と環境保全等、どちらか一方を取るということではなく（△「公害を生むから工場は駄目だ！」のようにもう一方を全否定）、歩み寄りながらバランスを取ることが大切。

・そうすると、相手のことを知ろうとしたり、環境や社会との関わりについて考えたりするようになることにつながるのではないか。」という意見が見られた。

・本分科会には企業の方、NPO 関係者、学生、学校関係者と様々な立場の方が参加されていたが、世代を越えて「こころもからだも健康に生きること」、「私にとっての幸せ、相手にとっての幸せ、社会全体にとっての幸せ」について語り合えた、有意義な時間となった。

【記録担当者】

・三村悠美子（岡山大学教育学部附属中学校・NPO ICOI）

**５．気候変動危機、あと７年がタイムリミット！ 自然エネルギーで安全な未来を創ろう!!** 参加人数 14 人

【講　師】

・エネミラユースチーム

・塚本悠平 氏（自然エネルギー財団研究員）

【概　要】

・世界的な問題であり、影響を年々ひしひしと感じる気候変動について、若者・大人両軸で対処するための分科会を行いました。塚本氏からの情報提供の後、急速かつ大幅な対策をとるために当事者である私たちができる具体的なアクションは何かを考え実践につなげるためにグループに分かれて話し合いを行った。

【内　容】

１．開会あいさつ

２．情報提供（塚本 氏）

・気候変動の話

・国内外の現状

・岡山県の事例紹介（緩和と適用）

・グループワークにつながるための事例

３．グループワーク（進行：塚本 氏　ファシリテーター：小野 氏、疋田 氏、田中 氏）

1）どんな学校・社会になってほしいのか（姿・取り組み）

2）具体的にどのようなアクションが必要となってくるのか

【まとめ】

・グループワークは、学生グループ１つと社会人グループ２つの計３つに分かれて行い、立場による意見の違いがあり興味深かった。学生グループは、先生やメディアの力を借りつつも生徒主体で行動を起こしみんなで取り組んでいくことの重要性について言及していた。

・社会人グループは学校を超えて地域と地域のつながり、地域と会社のつながり、産官学の連携等各主体が連携して行動を起こしていくことが話題に上がった。今後の生活少しでも変えていく上でのきっかけになったのではないかと考える。

【記録担当者】

・田中朱音（岡山大学大学院生）

**６. 気候変動の謎を解き明かそう！ ～岡山県版気候変動のミステリー～**　　参加人数 18 人

【講　師】

・高橋敬子 氏（未来のための ESD デザイン研究所）

【概　要】

・身近なところで感じるさまざまな気候変動による影響。日本、世界、岡山県では、どのようなことが起こっているのか、新たな教材 「岡山県版気候変動のミステリー（試作版）」を使って実践した。

・参加者グループ内の知識を生かし、意見を出し合い、協力しながら、気候変動の謎 （ミステリー）を楽しく考えた。

【内　容】

１．ミステリーカードの概要説明

２．グループ内での自己紹介・アイスブレイク

３．岡山県版ミステリーカード実践

　・ミステリーカードの実施手順の説明

　・ミステリーカードの体験

　・グループ代表によるミステリーカードの結果発表

４．ミステリーカードの解説・まとめ

【まとめ】

・参加者からは、「気候変動や温暖化によってどのようなことが起きているか、改めて知ることができて良かった」「カードの内容がとても興味深く、身近なものとして考えやすかった」というような感想があった。

・今後、「岡山県版気候変動適応のミステリー」は、アンケートの意見等を参考にして完成予定。

【記録担当者】

・綱島健二（岡山県環境文化部新エネルギー・温暖化対策室）

**7．環境 × 国際協力 × 自分**　　参加人数 13 人

【講　師】

・藤原健史 教授（岡山大学）

・増田勇希 氏（(特活）ひろしま NPO センター）

・川原和眞 氏（西粟倉百年の森林協同組合）

【ファシリテーター】

・長谷川真紀（岡山県 JICA デスク）

・藤田かおり（JICA 中国）

【概　要】

・環境課題の解決のためには、まず、私たち一人ひとりが「自分ごと」として捉え、行動を起こすことが重要である。

・すでにアクションをおこしている三名の講師のキャリアや環境活動への関わりについて聴き、グローバル／グローカルに環境活動に関わる自分像をそれぞれの参加者が描いた。

・その上で、それを実現するためにどんな行動を起こすかを考え、言葉に出して共有しながら語り合った。

【内　容】

1．分科会趣旨・講師・スタッフの紹介

2．講師による、キャリアと環境活動への関わりについての情報共有

　・藤原 健史 教授（岡山大学）

　・増田 勇希 氏（(特活）ひろしま NPO センター）

　・川原 和眞 氏（西粟倉百年の森林協同組合）

3．ミニ・ワークショップ

　・グローバル／グローカルに環境活動に関わる自分像

　・現状

　・望ましい自分像を実現するための具体的な行動

4．グループ内での共有

【まとめ】

・参加者から「幅広い年代の人たちと話ができて、とてもよい時間になった。」「みなさんのキャリアプランが多種多様で、自分の将来を見つめ直せた。」「行動に向けて背中を押してもらった。」などのコメントがあり、多様な背景を持つ人による交流が刺激になったことが感じられた。

・「共有の時間がもっと欲しい。」「女性の講師もいると嬉しい。」など、今後の企画の改善につながるフィードバックもいただいた。

【記録担当者】

・長谷川真紀（岡山県 JICA デスク）

**８. もしも自然災害が起きたらどうするか？ 被災者のためにできることを考えよう。**　　参加人数 14 人

【講　師】

・石原達也 氏（災害支援ネットワークおかやま・事務局）

・岸裕生 氏（災害支援ネットワークおかやま・事務局）

【概　要】

・平成 30 年 7 月豪雨は気候変動の影響による災害であり、岡山でも大きな被害が及んだ。

・突然起こる災害で被災者となった方のために私たちは何が出来るだろうか。

・本分科会では、公的援助の隙間を補完する「誰一人取り残さない支援」について災害支援ネットワークおかやまの取り組みを通して学び、個人または組織として出来る支援についてグループで話し合い、全体で発表した。

【内　容】

１．オリエンテーション

・災害支援ネットワークおかやまの紹介

・災害支援ネットワークおかやま部会の活動の紹介

・基本理念「誰一人取り残さない支援」について

・西日本豪雨と様々な支援活動の紹介

・災害ゴミ問題について

３．グループ内で「自分自身・組織で出来る支援について」を話し合い・発表

３．グループ内で「災害ゴミを減らす方法・効率の良い対応について」を話し合い・発表

４．これからの暮らし・避難・災害支援の在り方について

【まとめ】

・参加者は、災害支援において公的援助だけでは取り残される人が存在し、公的援助の隙間を補完する支援の重要性について、スライド資料を通して学んだ。

・そして、被災者を誰一人取り残さないために私達にはどのような支援が出来るか、避難生活や被災家屋、仕事への復帰、災害ゴミの処分など要素ごとに話し合った。

・この話し合いを通して、参加者からは

「現実は思っていたよりも複雑で、やる気だけでは解決できない難題だと痛感した。」

「学校では学べない事を資料と議論を通して学ぶことができた。」

「考えなければならない事、新しい視点について知ることが出来た。」

「お金の問題以外で自分たちが出来ることをもっと考えていきたい」などの感想があった。

【記録担当者】

・高橋未優（徳島大学学生）

**９. 海ゴミの解決に向けての取組み　～子どもたちの思いを広げていくために～**　　参加人数 23 人

【講　師】

・岡山市立操南中学校

・板谷武 氏(山陽新聞社吉備の環プロジェクト推進本部)

【概　要】

・岡山市立操南中学校では､海ゴミの課題解決に向け、海につながる身近な用水路でのゴミに視点を当てて、ゴミを拾う活動に取り組んでいる。

・活動では連合町内会とのつながりも構築し、地域と共に取組みを広げていく大切さも学んできた。さらに、ペットボトルについては、地域の企業と新たにつながりを図ることができ、回収のその先への理解が深まったと発表した。

・「地域とともに」地域課題への取り組みを進めている山陽新聞社からは、吉備の環プロジェクトの構想や活動の実際を聞いた。「よりよい郷土の未来を共につくりたい」という思いの一環として、３大河川流域の豊かな水を通じた人・文化・自然のつながりを大切にし、瀬戸内海の課題解決のためにも海ゴミの削減活動に参画しているということだ。

・発表を踏まえ、小グループで、海ゴミや環境に関する思いをフリップトークし、交流した。

【内　容】

１．小グループで参加者の自己紹介

２．操南中学校の取組みの発表

３．山陽新聞社における実践の発表・情報の提供

４．発表内容についての質疑応答

５．小グループ内でフリップトーク

　・実践発表についての感想

　・自分にできること・実践していること

　・１０年後に向けて、環境をよりよくするために大切だと思うこと

６．感想の共有

【まとめ】

・発表者の中学生は、自分たちの取組みを堂々と発表できたことやグループで評価されたことで、満足感・自己肯定感が高まった。さらに、大人たちも自分たちの立場で、共有できる思いを持って実践していることが分かり、理解が広がった。

・山陽新聞社の取組みを深める立場でも、人の交流が広がり、つながりが深まることで、さらなる継続発展への意欲の向上につながった。

・１０年後を見据えた活動には、人と人とのつながりを広げ、思いを強く持つ人たちのマンパワーが大切である。そのためにも、自己の活動を継続発展できる機会にもなる場としても、環境教育ミーティングは価値がある。

【記録担当者】

・高田恵子

## １０.瀬戸内海で何が？ ～魚を通して瀬戸内海を考える～　　参加人数 17 人

【講　師】

・森下倫年 氏（おかとと）

【進　行】

・室貴由輝 氏（岡山県教育委員会）

【概　要】

・今、瀬戸内海の様子が変わってきている。以前と比べると獲れる魚の種類が変わってきており、漁獲量も減っている。

・瀬戸内海ではいったい何が起きているのだろうか。瀬戸内海で獲れる量が減った魚、増えた魚についての話を聞くとともに、漁業そのものが変化してきた社会的背景を知ることにより、これから自分たちが何をすべきなのかを考える機会にした。

【内　容】

１．話題提供者（森下氏）の紹介

２．話題提供者による瀬戸内海で獲れる魚の変化についての紹介

・瀬戸内海で獲れるサケの紹介

・獲れる量が減った魚について

・獲れる量が増えた魚について

・流通から考える食べる魚の変化について

・魚と食文化について

４．グループ内で感想や疑問を共有・発表

【まとめ】

・瀬戸内海で獲れるサケの仲間の話から、森下氏の瀬戸内海の魚の話に引き込まれていった。

・獲れる量が減った魚、増えた魚については、海水温の上昇や、栄養塩の変化等、様々な要因があり、生態系そのものが変化してきている。

・また、食べる魚についても、流通が大きく変わり、地元で獲れる魚についての意識もなくなってきた。

・参加者からは、祭りなど、行事と関連付けて地元の魚を食べることや、今ある海の姿を伝えていくことの大切さが語られた。

【記録担当者】

・室貴由輝（岡山県教育委員会）

## １１.環境教育・・・　これまでの 10 年　これからの 10 年　　参加人数 18 人

【講　師】

・中平徹也 氏（環境教育アドバイザー）

・友延栄一 氏（岡山市職員）

・湯場俊一 氏（明和製紙原料株式会社　リサイクルアドバイザー）

【概　要】

・おかやま環境教育ミーティングが始まって今年で 10 年。環境教育のこれまでを振り返り、これからの 10 年に向けてどのようなアプローチが必要か。

・第一線で活躍してきた講師たちとともに一緒に考える。

【内　容】

１．自己紹介タイム

２．私たちの環境教育この 10 年

・10 年前ミーティングを始めた思い

・思いは形になっているか？成果と課題

３．10 年の変化　2014－2023

・変わったこと変わらないこと

環境、社会、自然、教育…

４．次の 10 年後に向けて

・キーワード　2033 に向けて

上記の内容を過去の資料を交えて補足説明を受けて、参加者は 4 人グループに分かれて討議を行い、それぞれのグループで出た意見を発表した。

【まとめ】

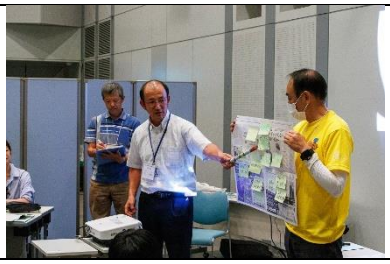
・参加者の中にも講師として長年活躍してこられた方が多く、これまでの取り組みに対する思いや、課題に感じていることを共有した。

・今後の 10 年の環境教育・保全活動を行う際に、参加者の特に大切にしたいキーワードとして挙げられたのは、「自分事としてとらえる」「科学的知見」「生徒の社会参画・体験学習」「友情→協力→協働を通して SDGs につなげる」「ストロングポイントを伸ばす」「多様性を大切にする」「社会システム」「講師のモチベーション」などがあった。

・90 分という時間の中ではすべてを語りきることはできなかったが、全員参加での討議を行うことができた。

【記録担当者】

・湯場俊一（明和製紙原料株式会社）



**15:00　移動・休憩**

**15:15　全体会　（NPO 法人だっぴ　コーディネーター　大森哉絵）**

- 異なる分科会同士になるように６～７人組のグループに分かれて交流を行った
  （グループは、移動先の番号が名札に記載してあり、多様な構成になるように配慮した）
- 最初に参加にあたってのチェックイン
  （分科会の満足度、全体会への期待度などをジェスチャーで表現）
- 参加者同士で簡単な自己紹介をした後に、1 日の「ふりかえり」と「わかちあい」として以下の設問に対してキーワードを書き、グループ内で意見交換を行い、1 日の学びや気づき、想いについて一人一人整理し共有した。
  ① 今日持ち帰りたいもの
  ② 参加した分科会のキーワード３つ
  ③ 10 年後の岡山　どういう姿であったらいい？
  ④ 社会に対してできること、自分に必要なこと
  ⑤ 今日、一番の収穫 ＋ 今日の感想
- 会場全体に向けて、自分が感じたことや共有したことについて、自ら発表したい方やグループ内での他薦により、フリップに書いた内容や想いを発表、共有した。中学生や高校生などの若い世代の発表が多くあったことから、会場全体が活性化し、多くの意見が交わされた。

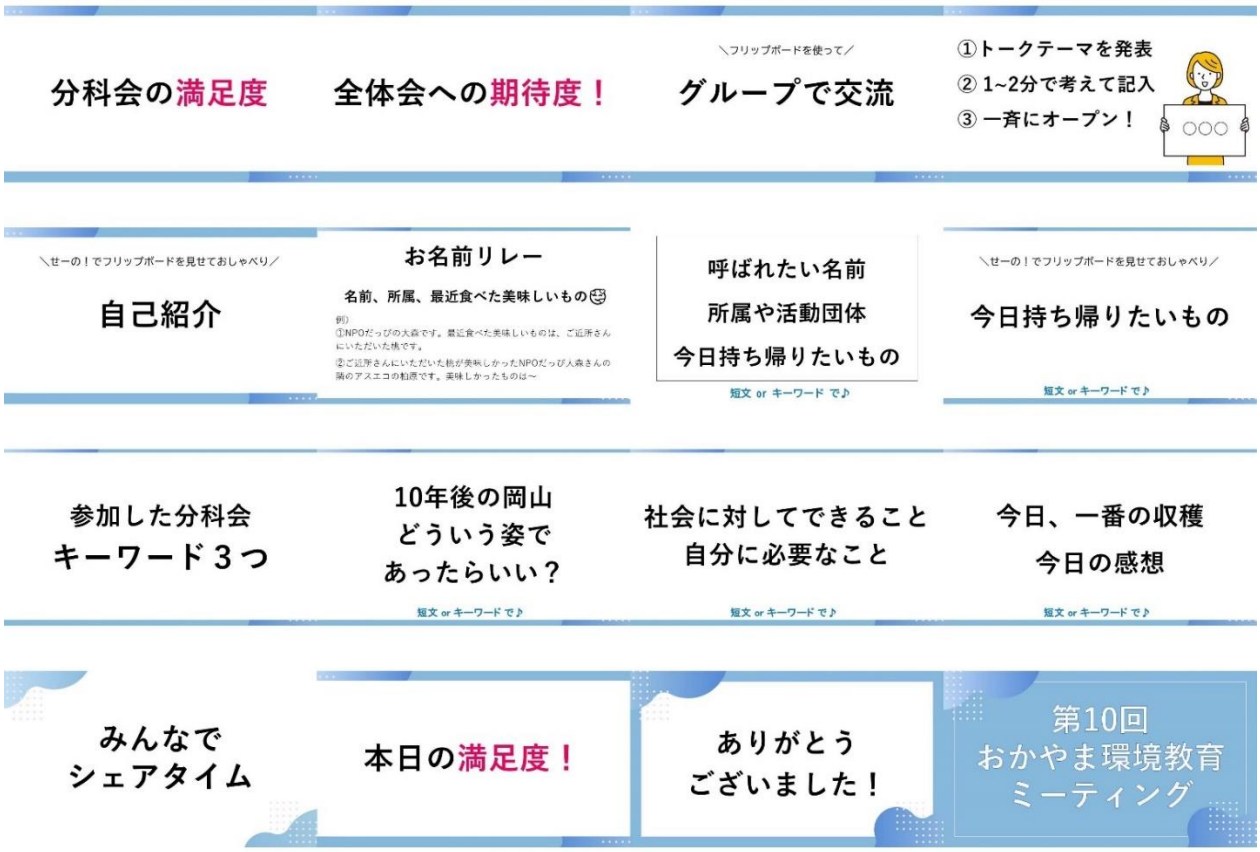



図 7. 全体会進行スライド　一覧

全体会

## 16:45　閉会挨拶　（環境教育ミーティング実行委員会 副委員長 林美帆）

- 全体会中、参加者から「楽しかった」という発言が多数あった。多数あるということは、皆さまから一定の満足感をいただいていると感じている。
- SDGs の達成に向けて大切にされているキーワードの一つに、「社会変革をすること」が挙げられている。
- 社会変革とは、「現状の物事を読みかえるのではなく、価値観を変えていくこと」が言われている。すなはち、SDGs 達成に向けて価値観の変革が行われなければ、地球は滅亡へ近づくのではないかと言われており、社会変革が求められている。
- ただし、価値観を変えることは、とても難しいこと。価値観を変えるために何が必要か、私はおかやま環境教育ミーティングのような「場」が必要だと思う。
- 苦しいだけでは、価値観は変わらない。今日のように、みんなで学んだことや気づいたことを分かち合う（共有する）場や発表する場、仲間ができる楽しさを実感していくことが、価値観を変容していくことの大切な要素と考えている。
- SDGs 達成や環境教育では、まず「個人でできること」を問われるが、実はこのような場を体験しているからこそ、それらは思い浮かぶことかと思う。今日のように、共有する、発表する、仲間をつくる、ひろば（場）を作る事も、SDGs 達成のためにできることと思う。
- 私は、2 年前からおかやま環境教育ミーティングに携わり始めたが、毎年、参加者が世代を超えて本音で語り合い、楽しく、学びを持って帰る、この場が 10 年続いていることに驚いていると共に、岡山のこれからの 10 年の強みを作っていくだろうと考えている。
- 岡山県新エネルギー・温暖化対策室の皆さま、岡山県環境保全事業団の皆さま、実行委員関係者の皆さまには、このような場を創り続けていただき、とても感謝している。
- 行政、企業、学校教育関係者、社会教育関係者、NPO など、多様な団体や人が集って議論できることは、とても重要なことである。このような場を大切にして、次の 10 年へつなげていきたいと考えると共に願っている。

閉会式

閉会挨拶

集合写真

## ３．アンケート結果（回答の合計：215 人）

Q１．本ミーティングの内容は、あなたの目的や期待を 100 点とした場合、何点でしたか？　また、その理由を 教えてください。

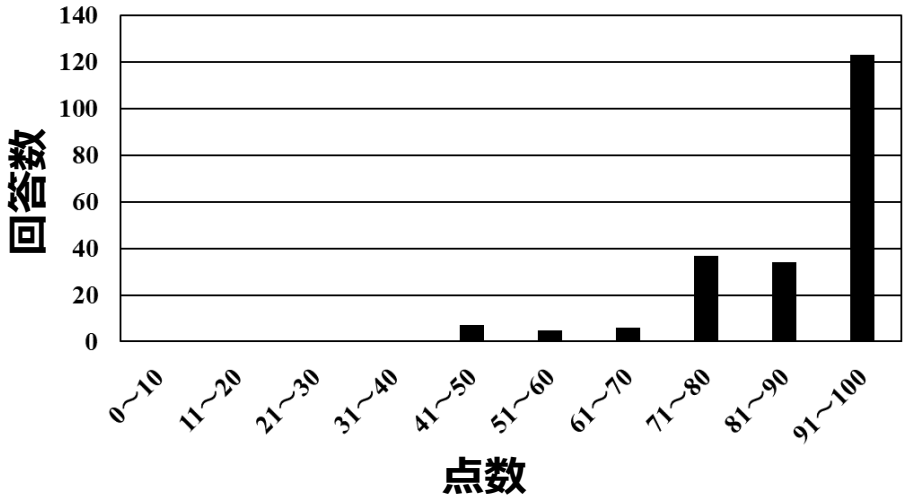



図 8. 点数の頻度分布　平均点 90.7 点（回答数 212）

【理由（一部抜粋）】

- 様々な活動を知れたし、皆さんの想いやエネルギーを感じられたため。
- 新しく団体の情報を得ることができました。
- 様々な活動を知ることができた。特に中高生の地道な活動を知れる機会は貴重だった。
- 環境についてこんなに楽しく、しっかり学べる機会はこれ以上に無いと思いました。是非来年も高校で参加できたら良いなと思いました。本当に良かったです。
- 初めてだったので勝手がわからず、展示準備物などをもっと工夫出来れば良かった。
- 今まで知らなかった活動を知ることができた。モチベーションもあがりました。
- 色んな方と繋がれて世界を広げられた。
- たいへん雰囲気も良く、多くの方と出会えたから。
- 様々な人の意見や考えを知る事ができて有意義な時間になりました。
- 学生さんや他業種の方と、いろいろなお話ができて良かったです。
- 生徒の引率できましたが、生徒が昨日よりもすごく成長したこと。
- ブース出展しましたが、他のブースに行く時間が足らなかった。
- 他者との対話を通して思い・価値観を知ることができ、自身の世界が広がった。
- つながりの広がりが大きい、次の世代の参加が多い。
- 分科会の時間が短かった。
- たくさんの人たちに自分たちの思いを伝えることができたけど、もっと詳しく思いを伝えることもできたと思う。
- ブース交流で情報を得て、分科会で特定の話題を深め、全体で意見を共有して、たくさんの仲間がいることを実感できた。出会いもあり、とても楽しめました。
- 自分の活動についてたくさんの人に話すことが出来たし、環境に対する様々な活動を知ることが出来た！環境についてより興味が湧いた！

- 分科会の時間が短かった。
- 分科会が色々魅力的で参加ひとつなのがもったいない！
- もう少し多くの来場を期待していました（自ブースへの）。
- 世界規模での環境問題への対応が差し迫ってきており、既に「判断」する余裕が殆どなくなり、すぐに「決断」することが求められている状況がある中で、環境課題への対応は、欧米だけでなくＧ２０の中でも遅れた日本という現実がありますが、最新の科学知見を踏まえてどう具体的な行動変容することが求められているかの情報共有しないことは、果たして今の時代に即した機会なのでしょうか？
- 参加前は、環境の問題などが、たくさん学べるのかな、と思っていたけど、実際にはそれだけじゃなく多くの人と交流できたし、年の離れた方も学校が違う人とも楽しく話せたので、知識だけじゃなく、人とのコミュニケーションも学べたから。
- 今日初めて参加してブースも最初は渋々だったけど途中からすごく楽しかった。
- 世代や背景が様々な人と近い距離で交流できた。今後の活動をより充実させたり、新たな動きを生み出したりすることにつながりそうな出会いがあった。
- もう少し、時間欲しかったです。
- 中高生を中心とする若い人たちの活動や考えを知ることができ、感動を覚える一方、企業の参加が少ない点がやや残念でした。
- ブース展示や分科会に参加する人は、それなりに知識や意識が高い人々だと思われますが、私たちの研究や理念は、あやふやな情報や古い情報しか持っていない人々に知らせたい環境のことや生徒達の願いや頑張りなので、もっと門戸を広くしてほしいと思った。
- みなさん話されていることは、きっともうわかっていることだと思いました。その先の話ができたら良かったと思います。
- 途中からでも参加しやすく、色々な立場の人が参加できて、期待していたとおりの大変いいイベントだと思いました。
- 環境について、中高生の皆さんと大人が対等に、真剣に話し合う場があることにまず驚き、そして、互いにリスペクトし、受け止めるという環境が心地よかった。
- 全体会も限られた時間を有意義に進行され、シェアタイムに若者が積極的に発言されていたことも印象的でした。
- ブース展示のみの参加でしたので、もう少し深く知識や人との繋がりを体験したいと思ってこの点数です。次回は分科会も受けてみたいと思いました。
- もう少し、情報を聞きたかった。
- 企業取組を充分に発信できなかったため。
- 展示ブースを回りきれなかった。
- 企業や学生などの発表が想像以上に多く、たくさんのことを知れた。
- とても良いです！残り 10 点は伸びしろです。
- ブース展示の時間がもう少し欲しかった。
- 企画内容、集まった方々のお人柄、心地良い空間、理解し合える安心感…出会い。とにかく元気をいただいて帰りました！　1000 点です！
- もう少し時間が欲しい。年数回のミーティングなど。
- 多様な取組に刺激を受けたから。ブースは専門的で少し難しく感じた。

- 堅苦しい場かと思っていたが、様々な立場、年齢の方々と気軽に話せる場だったのでとても楽しかったから。
- 今までは授業の一貫でしかしてこなかった、それぞれの分野にくわしい人や大人の人たちと交流することで新しいことを知ることが出来た。
- 環境について深く知れた。十人十色の視点があって、どのブースもどの発表もおもしろかった。もっと自ら勉強しようと思えた。
- 今まで自分たちの成果を一方的に発表するか大会にしか出たことがなく、直接話し、意見を交換したり実物を見せて話したりということがしたかったため、できてとても楽しかった。
- SDGs の土台の環境の大切さを学べることができた。もう少し企業出展があればと思います。
- 各団体の活動内容を知ることができたが、それぞれの連携やつながりが感じにくかった。
- 新しい取り組みが見つからなかった。展示に工夫がほしい。
- たくさんの人の意見を聞くことができた。少し時間が短かった点が満点にならなかった理由です。
- 他の中学校や、高校、企業の方の活動をたくさん知ることができたから。
- 多くの人に私たちが行っている活動について知ってもらうことができ、共につながることができたと感じたから。
- 今まで自分たちの成果を一方的に発表するか大会にしか出たことがなく、直接話し、意見を交換したり実物を見せて話したりということがしたかったため、できてとても楽しかった。

Q２．本ミーティングに参加された目的を教えてください

【その他を回答した人の詳細コメント（一部抜粋）】

- 生徒の環境に関わる研究は、コンクール以外に発表や紹介をする場があまり無いので、頑張っている生徒のことをコンクール等の応募先以外の人々にも知って頂きたいと思ったため。
- 学校現場での環境教育の現状に関心があったため。
- 環境に対する意欲をもらうため。
- トーク能力向上のため。
- コミュニケーション能力を高めるため。
- 温故知新。
- 進路のため。
- 生徒への啓発。
- 部活動。
- 楽しそうだから。
- WellBeing を学ぶため。
- BDF を知ってもらうため。
- 知人がブースを出すためどんな内容か知るため。

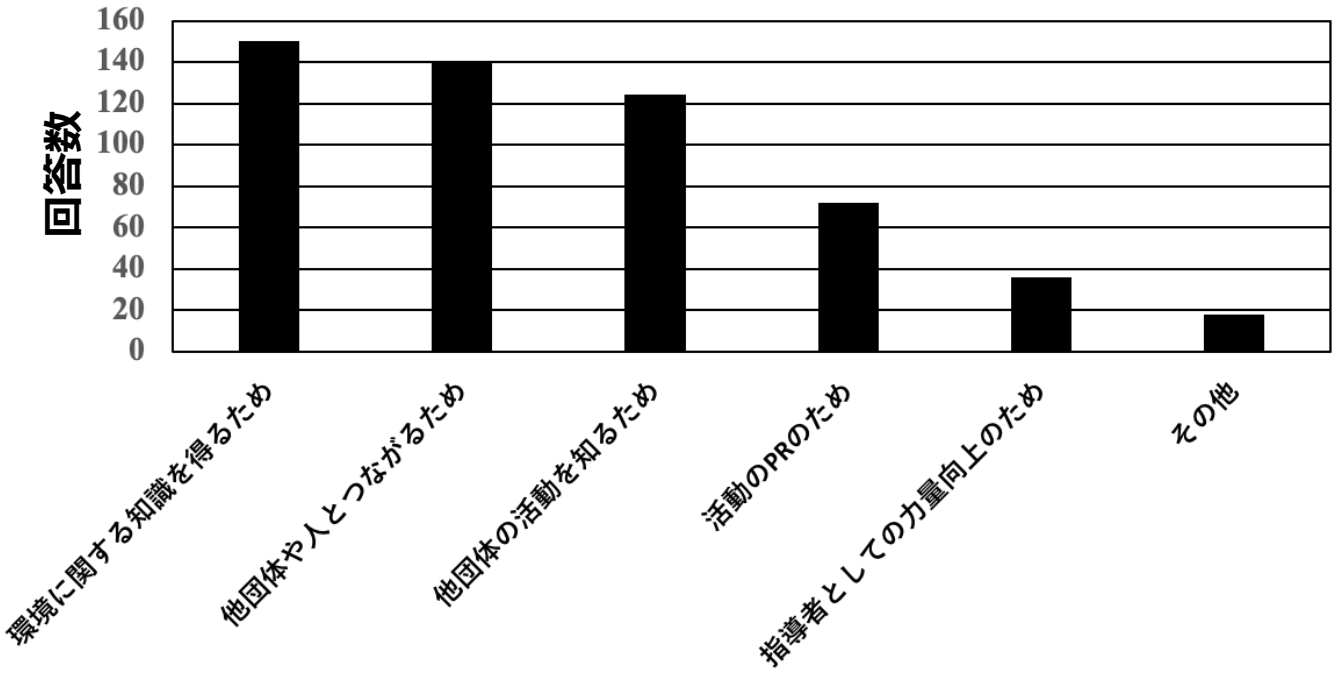



図 9. 参加目的（回答者 213 人）
※複数回答可

Q３．ブース展示について感想をご記入ください。

【感想（一部抜粋）】

- スペースがもっと広いほうがいい。
- 体験イベントはモノづくりとしては、作成スペースもなく団子状態で残念でした。
- 時間が短く見て回れないところが多かった。
- 昨年より間隔が広くまわりやすかった。
- スペースが広く時間もあったので、見学がしやすかったです。多くの方が声をかけてくださったのもよかったです。
- 企業の出展だったので、もっと若い方も気軽に見易い雰囲気にすればよかったと思います。
- 会場アンケートを実施させていただきましたので、報告させていただきます。（有効 73 名）

  １．環境問題で一番深刻だと思うテーマは？

  ・プラスチックごみ 14、生物多様性 6、食料危機 11、地球温暖化 42

  ２．プラスチックごみで一番の問題は？

  ・何度回収しても減らない 17、小さく分解してもなくならない 42、体内（血管内）に侵入する 11、わからない 3

  ３．再生エネルギーと生物多様性は両立できる？

  ・両立できる 41、再生エネルギーを優先すべき 12、生物多様性を優先すべき 12、わからない 8

  ４．あなたの生活に温暖化対策は？

  ・生活の質を脅かす 14、生活の質を高める 35、生活の質には影響しない 19、わからない 5
- 他のブースをゆっくり見たかったが、ブースにいなくてはならずなかなかゆっくり見れなかったのが残念でした。
- やや時間が長いと思った。

- 良い展示が数多くあったため、もう少し時間が欲しかった。
- それぞれの団体の方々、それに見に来て下さる方からも環境問題に対する意識の強さが伝わってきた。
- SDGs や環境問題について関心のある方が殆どで、会社の取り組みについてご説明すると熱心に聞いてもらえ嬉しい思いをしました。
- ひとりだと声をかけづらい場合もあるので、ツアーがもっとあるとよかった。
- 思ったことをすぐ質問できたり、自分のしている活動とつなげて話すこともでき、どういう所と連携できそうか考えやすかった。
- 一見、普段の仕事とはあまり関係がないように見えても、実際はしっかり関係していることを実感出来ました。
- 各ブースで 10 代の皆さんの活躍が特に目立っていたように思います。とても嬉しく思いました。
- 学生の方のブース展示が多く、若い方が関心をもって環境のことを考えていてよかった。
- もう少しブース展示をゆっくり見たかった。
- 今回、50 以上ものブース展示があり、興味深いものが多くありました。生徒を引率してきたのですが生徒にとっても自分で話を聞いたり、質問したり、積極的にかかわる練習になりました。
- 最初は渋々だったけど相手もちゃんと目を見て話を聞いてくれるからすごく嬉しかったし段々と楽しくなった。
- ブースが小さく見にくい。
- 自分では考えたことのなかった取組みばかりで刺激になりました。
- 自分のしている活動を伝えたり、他団体の活動を見ることができ、貴重な経験となった。
- 紹介していただけるツアーがあってよかったです。
- 中高生の主体的な取り組みが多く紹介されているのが良かった。それぞれのブースで展示されている活動が興味深く、もっとゆっくりお話を聴きたかった。
- 難しいとは思うが、もう少し時間が欲しかった。
- 12：30 以降もブース展示物だけでも残していてほしかった。

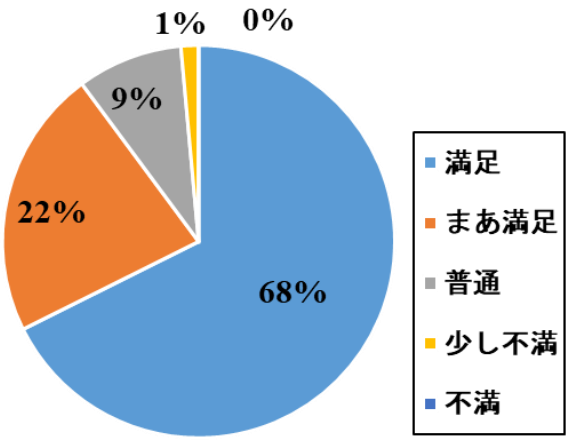



図 10. ブース展示の満足度（回答数 207）
※「不満」の回答者はなし

Q４．分科会について感想をご記入ください。

【感想（一部抜粋）】

〈分科会 No. 1〉干潟って知ってる？ ～意外と身近な希少生物の宝庫?！～

- 干潟とカブトガニの話は繋がっていたのに工夫を感じた。カブトガニは絶滅危惧種でそれの繁殖地も天然記念物ってことを初めて知った。色んな事を聞けて興味深かった。
- カブトガニや干潟の大切さを知れました。
- 干潟には関わったことがあったのですが、自分の知らなかったことを知ることが出来て、もっと干潟の生物について興味が湧いたし、知りたいと思えました！
- 実際にカブトガニの剥製を触ったり、自分の住んでいる地域も干拓が行われているから身近だと思った。
- 実際に触ったり、様々なことを聞いたりできて、良かった。
- 大変興味深いご講演でした。お二人方の話で共通して、人と自然との共生について考えさせられる側面がありました。

〈分科会 No.2〉チリメンモンスターから学ぼう！ 里海・里山＆SDGs

- ちりめんじゃこにたくさんの生き物がいて、探すのがおもしろかった。
- チリメンモンスターを通して瀬戸内海の良さを知れた。
- チリメンモンスターを通して SDGs について考えることができた。
- とても楽しかったです！　ちりめんだけではなく、色々な生き物が水揚げの時には入っているんだなと思ってとても勉強になった！
- ふだんはできない体験ができてよかった。
- 自分の知らなかったことを知ることができてよかった。
- これからちりめんを食べる時には、今回の分科会のことを思いながら食べていこうと思います！
- ちりめんのことに加えて、ウミホタルの発光なども教えてくださりとても楽しかったです。

〈分科会 No.3〉子どもと大人の SDGs 学習ゲーム 「Get The Point」体験会

- SDGs の目標達成には協力が必要不可欠と感じた。
- SDGs 学習カードゲーム：初めて参加しましたが、子供たちが楽しく SDGs の勉強ができると思いました。
- カードゲームで、楽しく勉強できてよかった。
- ゲームで SDGs など世界の現状を知って取り組むことが大切だと思った。
- ゲームをやりながらだったので楽しかったところもあったり、1 回目と 2 回目で何が変わったかを考えて世界の現在がわかった。
- とてもよくできた学習ゲームだと思います。何度でもやりたい。
- わかりやすい！　面白い！興味がわく工夫にあふれてました。

〈分科会 No.4〉環境と健康と公害から well-being を考えよう

- WellBeing について、とてもふかく考えられ、よかった。
- 幸せについて改めて考え直したいなと思いました。
- 新しい知識に触れる事ができてよかったです。
- 内容が学び深かった。

- とても勉強になりました。
- もう少しお話したかった。
- 健康企業を目指す企業様への提案時の勉強になりました。

〈分科会 No.5〉気候変動危機、あと 7 年がタイムリミット! 自然エネルギーで安全な未来を創ろう!!

- 学校へと生かす方法を考えさせてくれたため、良い内容だった。
- お話の時間を短くして、共有する時間が長いと良かった。
- 話題提供と話し合いの関連性が重要と思った。
- 財団からの基調報告では日本の高校生が自分の高校に自然エネルギー導入を求めて、実現させたり、クーラーの効かない学校の教室を涼しくしてほしいと断熱改修ワークショップに取り組む倉敷市の小学校が紹介されたり、今までに聞いたことのない報告で、とても新鮮でした。それらのとりくみにはサポートする環境団体があることも容易に想像できます。ともに学び、つながりを強めたいと思いました。

〈分科会 No.6〉気候変動の謎を解き明かそう！ ～岡山県版気候変動のミステリー～

- 講師のお話がとてもわかりやすくて、学びになった。ぜひ、地方版を作成して活用していきたいです。
- ミステリー手法について全く無知の状態だったのですが、環境問題をさらに細かく、身近に考えることができたので、ぜひ自分の活動に取り入れていきたい。
- 岡山の現状を知ることができて良かった。
- 岡山県版ということで、以前経験したミステリーよりも格段に自分ごとにできた気がした。完成したらぜひ公民館の講座で使いたい。
- 身近な話題から気候変動の課題を再認識することができ、とても勉強になった。
- 非常にわかりやすく楽しく気候変動について学べて、知れて、よかった。
- 立場ごとの異なる意見がでて、脱炭素にむけどう動いていこうかのヒントになったのではないかなと思いました。

〈分科会 No.7〉環境×国際協力×自分

- 講師方のお話がおもしろく、後半のワークショップでしゃべるのも楽しかったです。妄想を言語化して伝えるのが「ま～ムリやろなあ。」から「もしかしたら、実現するかも…？」という段階になりました。
- さまざまなバックグラウンドをもつ人との話は刺激的だった。
- 多方面の方の意見が聴けて良かったです。
- 環境分野でのキャリアに関する内容であったため、幅広い世代の方がご参加くださったことが、学び合いという点で効果的に働いた。参加者の様子を見ていて、どの方も、自ら学び、ネットワークを広げたいと真剣に思い、主体的にこのイベントに臨んでおられることが感じられ、とても明るい気持ちになった。
- 国内だけではなく海外にもどんどん目を向けて活動することは大切だと感じました。
- 専門的なお話で勉強になりました。また、年代が異なる方と関われたことが一番良かったです。

〈分科会 No.8〉もしも自然災害が起きたらどうするか？ 被災者のためにできることを考えよう。

- 興味のある分野に対して新しい方向から知ることが出来た。
- 少し難しかった。話し合いの内容も思いはあっても実際は難しいと感じた。
- 今現在、会社で BCP に取り組んでいますが、そこに繋がるいい経験になりました。
- 災害対策の現状に認識が理解できた。
- もう少し支援の具体例を学びたかった。

〈分科会 No.9〉海ゴミの解決に向けての取組み　～子どもたちの思いを広げていくために～

- 海ゴミを深く知ることができた。
- 海ごみに興味のある人たちの集まりだったので色々なアイデアを聞けてよかった。
- どちらも協働が素晴らしいと感じました。
- 発表時間が、少し長いように感じた。ディスカッションの時間が、もう少し欲しかった。
- 操南中学校の活動が地域、地域の企業に広がっていることがうれしかったです。
- 発表者さんの取り組みを自団体、倉敷市、高梁川流域でもやっていきたい！！
- 中学校の活動内容の発表が素晴らしいものでした。学生が大勢の前で発表するという機会が設けられるというのは大事だと思いました。

〈分科会 No.10〉瀬戸内海で何が？　～魚を通して瀬戸内海を考える～

- 「魚」をめぐる環境問題について深く考えることができました。
- 瀬戸内海の環境を守るためにどうすればよいかを知れてよかった。
- 瀬戸内海の現状を水産流通の視点から聞くことができ、具体的な内容でおもしろかった。解決策も自分の中で少し納得できるものが考えられてよかった。
- 瀬戸内海の変化について考えさせられました。
- 瀬戸内海の問題について知る事が出来て良かった。
- 昔から伝わる地元の食べ物や、後世に伝えることが、海を守るために必要だということを改めて知ることができました。
- 瀬戸内海の現状を水産流通の視点から聞くことができ、いつもより具体的な内容でおもしろかった。自分の中で解決策を少し納得できるものが考えられたらよかった。

〈分科会 No.11〉環境教育・・・　これまでの 10 年　これからの 10 年

- あたたかい雰囲気で発言しやすく、お話の内容もわかりやすく身近に感じる内容でした。
- お互いに情報交流をしながら、これからの環境問題について考える良いきっかけとなりました。
- 岡山県の環境教育を支えるベテランの皆様のお話しを聞くことが出来て良かった。個別にお話しを聞くことはあっても今回のようにまとまってお聞きできる機会は今までなかった。これからの 10 年についてはもっと深掘りして意見を集めても良かったように思える。
- 世界的な環境問題で、2030 年までがどれほど重要な期間であるかが問われている中で、今回の分科会ではまったく危機感など抱く必要がないかのごとく時間が流れていきました。一人一人の具体的な行動変容が求められている中で、これでは、環境教育ミーティングにも、環境出前講座にも期待できる内容（行動変容へのキッカケづくり）は見いだせないことを想起させる分科会でした。10 年間で規模の拡大が実現できたことと、様々な環境課題への社会的要求を満た

す人づくりの実現とは別物だと考えます。

- 環境教育ミーティングのスタート時のことが知れておもしろかったです。
- 様々な世代や職業の方と対話することで色んな課題やこれからの展望が見つかり、理解が深まりました。
- 環境教育の歴史についてもう少し知りたくなったので、自分で調べてみたいと思った。

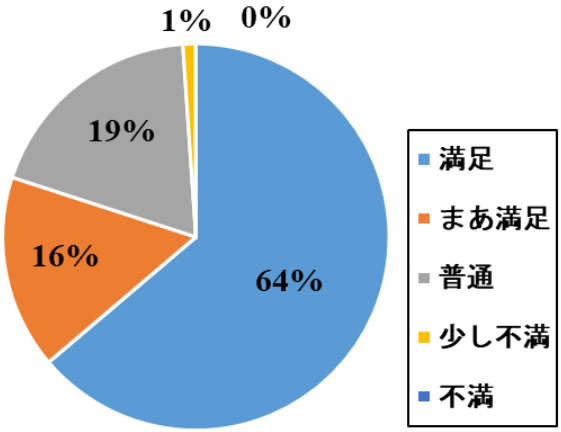



図 11．分科会の満足度（回答数 185）
※「不満」の回答者はなし

Q５．全体会について感想をご記入ください。

【感想（一部抜粋）】

- 色んな年代の人と話して、本当に色んな意見があって面白かった。まさに多様性！ちゃんと目を見て優しく対応してくれるしちゃんと反応してくれるから、説明が苦手な私でもやりやすい場だった。
- グループの皆さまと情報交換がしっかりできて、素晴らしい時間になりました。
- 名刺交換しました。繋がるアプリの開発をお願いしたいです。必要な情報を持つ方と必要としている個人、企業、団体を繋ぐアプリ。あったら活用したい。広報が必要！大切。
- このような形になると想像してなくて、予想外によい時間だった。自分が経験出来なかった分科会のことを、少しではあるが知ることもできたし、つながりもできた。
- 最後、感想をシェアしたいという手が若者を中心に次々と上がり、それも感心しましたが、互いの話に耳をすませ、身を乗り出して聴くという光景はけっこう感動的でした。
- 周りが賑やかで、グループの方の声が聞きにくかった。
- 分科会から全体会への移行まで、参加者にとっては待ち時間が長かったように思います。ここを短くして、全体の時間を短縮しても良いのかなと思いました。
- グループではほぼ全員が初参加でしたが、みな、また次回も参加したいと言い、大人の一人が「一日で足りない」というと、すかさず、中学生が「３日間にして欲しい」というのに全く感じ入ってしまいました。
- もう少し深掘って話ができたらよかった。
- 異職業、異年齢の方たちと輪になって思いをシェアする体験は、今回「環境教育」というテーマ

に沿って集まったことで、感動が何倍にもなりました。思いを同じくする方たちの中で心地良く過ごさせていただき、また未来への希望も（社会への希望も）抱くことができました。

- 学生だけで話していたら、知らなかったことや、物の考え方など、たくさんのことを、同じグループの大人から教えてもらって、こんな機会がもっとたくさんあればいいなと思った。
- 初めての参加でしたが、アットホームで和気あいあいとした素敵なグループ対話でした。価値観の近い方々と環境や気候変動の話題で思い切り話せて、心から幸せでした。
- 色々なことを共有し合えたし、お互いを知ることができ本当に楽しかったです！
- 全体会で総括でき、またここでの出会いが楽しさを倍増してくれました。進行も気持ち良く、他のみなさんも楽しいと言われていました。雰囲気がとても良いです。
- 全体会に出るまでは、どんな場なのかが明確にイメージできていなかった。でも、出て良かった！と、終了後に思った。多様な背景を持つ参加者が、膝を突き合わせて振り返るのは、とても有意義な取り組みだと感じた。そこで得られたつながりはもちろんのこと、振り返りのプロセスを学べたこともありがたかった。
- 様々な年齢層、立場の方々が、沢山集まる中での運営、大変だったのではないかと思います。誰しもが意見の出し易い、しかし、深く考えることの出来るテーマが良かったです。

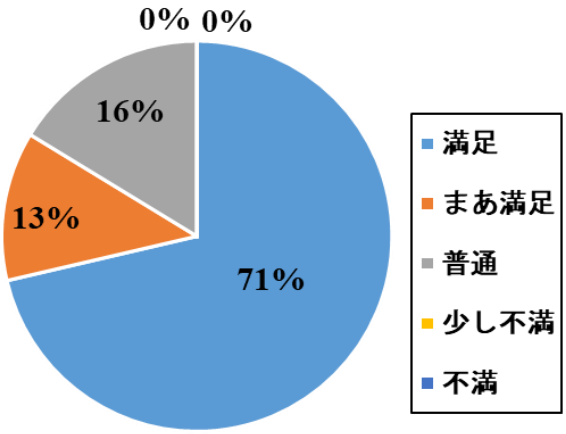



図 12. 全体会の満足度（回答数 178）

※「少し不満」・「不満」の回答者はなし

**Q６．本ミーティングで、新しいつながり、知識、スキルなどが見つかり、次のアクションについて、手ごたえやヒントが見つかりましたか？【見つかった手ごたえやヒント（一部抜粋）】**

- SDGs に取り組むことで、世界をよくしていけるそのきっかけを知ることができた。
- あまり大人の人たちと話す機会がなかったので、違う世代の人たちとつながれた。
- ゴミ拾いを積極的にして地元を綺麗にしたいと思った。
- これからの社会をより良くしていくために、今自分がすべき行動や変えていくべき行動を考えるキッカケになりました！
- これからも自分たちの活動を「続ける」ということが大切であるという事が、改めて知ることができた。
- これまで関わってきたイベントは、高校生対象、大学生対象など、対象の年代を絞ったものが多かった。しかし、本イベントでの経験から、内容によっては、様々な年代の人が参加することで、お互いに新たな気づきや刺激を得られることを実感した。

- ニュースにならない、知らなかった環境問題を知り、直接お話を聞くことができて良かった。
- 海ごみの問題など地域に帰ってとりくみたいと思った。
- 皆さんの活動のチラシを店舗に置いて紹介する。
- 学校での脱炭素の取り組みにヒントをいただきました。
- 学生と地元住民を巻き込んでの活動がしていきたいと思いました。
- 活動に関わってくれる可能性のある人との繋がりができたと思う。
- 身近な身の丈にあったところから、少しずつ、そしてテンポアップしながら地域社会に働きかけていきたいと思います。
- 気候変動問題を共有できる人がいることを知れたこと。
- 今考えている公民館講座に、プロギングを加えたいと思ったし、来年度の子ども向け講座のヒントにカードゲームはなった。
- 持続可能にするには若い人達との関わりが重要だしこの繋がりを続ける為に何が必要か考えるきっかけが持てた。
- 自分が何を勉強すべきか、どのような活動をすべきか指針が見えてきた。
- 自分の活動に賛同して参加してくださる方が見つかりました！
- 自分の理想の将来像を考え直すきっかけになりました。
- 自分一人でも取り組める事は継続して大勢で取り組む事のメッセージの発信力を大切にする。(ゴミ拾い、清掃活動など)
- 色々な角度（仕事、立場）から、環境保全に取り組んでおられる方々がおられるということに気付きました。それは今後、取り組みを続ける際に励みになると思います。
- 新しいつながりは期待以上にできました。知識について、自分自身に足りない部分、他の人に頼る部分、団体としてこれから必要なこと、課題などが見つかり、これからに役立つ大きなヒントやアイテムを入手できました。
- 新しい繋がりが生まれ、これから行ってみたいところ、学びたいことがたくさんできました。
- 新しくフォーラムなどで活動を紹介したい団体にたくさん出会えた。
- 新しく仲良くなった人から別の視点からの意見をもらえた。
- 人とのつながりの大切さ、気候変動・ごみ問題・生き物の新しい知識を得ることができた。
- 先生と生徒だけでは気づかないあらたな気づきがいくつかあって、とても良い経験になった。
- 地球温暖化に抵抗する方法など知れた。
- 地産地消の取組が、前海を守り、土地を守る事ができる事を改めて知ることができました。祭ずしなど地物を使う行事食は、積極的に後世に伝承していきたいと思いました。
- 本日の目標を「本気で行動変容している人との出会い」としていましたが、全体会のグループの中に「本気で具体的に行動変容を実践されている人」がいらっしゃいました。

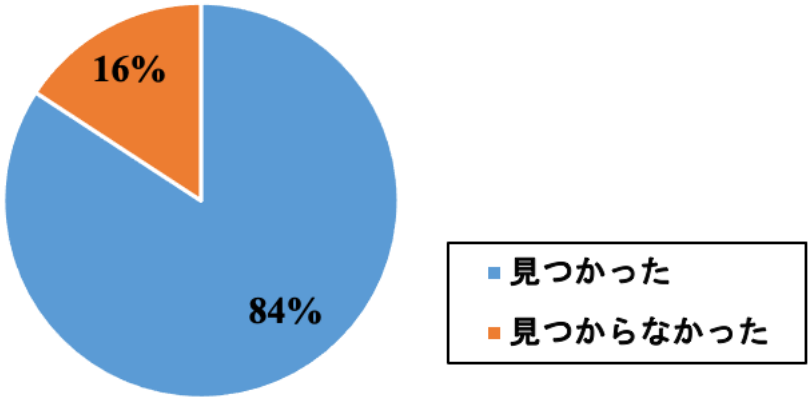



図 13. 新しいつながり、知識、スキルなどが見つかり、次のアクションについて、
手ごたえやヒントが見つかったか（回答数 190）

Q７．最後に、第 10 回となる今回の環境教育ミーティングでは、次の 10 年につながる出会いと気づきの場を作り、行動のその先を全員で考えていく場にしたいと実行委員一同準備をしてきました。そこで、今回のミーティングに参加し、あなたは 10 年後どのような岡山であってほしいと思われますか。

【一部抜粋】

- （今のまま）自然豊かですごしやすい岡山。
- カーボンニュートラルを達成している。
- 山や街中、校庭などに今よりもっと森林が増え、生物多様性が回復しはじめている。
- お金より命が大切な社会になっている。
- 岡山県内にあるビルの屋上は、殆ど緑化されている。
- 交通網が発達し、公共交通機関での移動がスムーズになる。そんな岡山になっていて欲しいと思います。
- 10 年後の岡山が、より良くなりそれを日本、世界に繋がる活動を作り上げる若い力が育ってほしい。
- 10 年後も今回のミーティングが継続しているような岡山であってほしい。
- $CO_2$ フリーなエネルギーで生活している姿（あたりまえな）。
- ESD という言葉も少しずつ広まっていますが、まだまだ知る気付くのフェーズを抜け出せていない気もします。学校によってやる・やらないの選択ができる今の状態から、必修にするくらいの変革ができれば、岡山は全国 No.1 の ESD 先進県になると思います。なって欲しい！
- ESD 教育が SDGs 目標になった。
- イベントなど活気ある岡山。クリーンな岡山。
- オーシャンズＸのお陰で環境活動への取り組みが進んだ。オーシャンズＸプロジェクト終了後も、その勢いが衰えないよう行政の総合計画などに落とし込み、計画的に活動が継続されるようにしたい。
- キレイで笑顔あふれる町。
- ここで話したことを 10 年後アクション、教育できる人が育っている、育てられる岡山。

- このイベントのように、年齢も関係なく楽しく何かを学べる場所がたくさんある岡山。
- このミーティングがより発展している岡山。
- このような活動の成果で少しでも改善がみられると良いなと思いました。
- ゴミを出さないように注意をしていき、ごみがでない岡山にしていきたい。
- ずっと住み続けることができる街であって欲しい。
- ずっと豊かな岡山！
- たくさんの話で豊かできれいな岡山であってほしいです。
- ダムの撤去、アマモ場の増大、砂浜復活、森林の手入れ増加。
- ともに岡山の未来について、たくさんの方が自分で考え、仲間と考え、行動をしていく未来であれば良いなと思いました。
- どんな人も安心して暮らせる街。
- みんな(お年寄りも子供も大人も)が生活しやすい岡山になってほしいと思います。
- みんなが協力して、徳島県上勝町のような廃棄物の分別がしっかり行われる街になると嬉しいです。
- みんなで環境について協力できる。
- やさしい緑。
- 愛すことかできる岡山。
- 意識高めな岡山でいて欲しいです。
- 一人だけが問題解決に向けて動いてもなかなか進まないので、みんなで協力して解決に向けて考え行動できるような岡山になって欲しいなと思いました。
- 一人一人が環境に配慮した生活を心がけ、それを周りに、これからの未来につなげられる岡山。
- 一人一人が環境問題を「じぶんごと化」して向き合い、具体的に「行動変容」できる人がたくさんいる岡山。
- 一部の人ではなく全体（全員）が話し合える場所があると良い。
- 岡山の若者たちが真剣に大人たちと自分たちはどんな未来に生きていたいかと語り合うとき、「今のままの岡山であってほしい」と描かれていたことが意外でもあり、逆にこれ以上、「緑をなくさないで」とか「川を汚さないで」というメッセージだったのだと思い返しています。
- 危険な暑さで外出を控えなければならない日本の夏は異常であり、私たち大人の責任ある選択が迫られていると思いました。
- 岡山の様々な魅力を若者にアピールできて、岡山が活気づくようになって欲しい。
- 岡山はカーボンニュートラルが遅れている感がある。先に進んだ取り組みを望む。
- 岡山は自然災害があまりないから、その対策をしてほしい、意識を高めてほしい。
- 課題が、解決されたことをみんなで共有できるような場になったらいいな。
- 学校を通じて参加した学生たちが、未来に繋がる活動を展開している。
- 環境について考えてみようと思う人々が集まる街。
- 環境にやさしい持続可能な岡山。
- 環境に対しての活動を継続して行い、自分の子どもに今まで学んだ知識を伝えるというような次につなげる活動を行っていき、循環していくような未来にしていきたいと思った。
- 環境に対して熱心で取り組むことをやめない岡山。
- 環境に配慮した町として他県から証拝される岡山県。

- 環境問題をこの様に知って関心を持った人たちができることをしていって少しでも減らしていけたらいいと思った。
- 景色のいいお店が岡山であってほしい。
- 県民一人ひとり行動に責任をもち、資源循環型社会を実現する。そして、河川をキレイにする、自然エネルギーを増やす、有機無農薬農業を支えて、学校給食もより安心安全に。
- 元気な海、元気な里山、元気な住民、キラキラ輝く岡山であったら良いなと思います。
- 好きなことから環境問題につなげていく。
- 黒いのりがとれる海であってほしい。
- 今あるものを残し、課題解決を少しでも進める。
- 今ある環境問題を解決または対策できている岡山。
- 今とは変わらず、できれば今よりもゴミが少なくなかったり自然がより豊かになっているような岡山県であってほしいと思う。
- 今の生態系の継続+α。
- 今より発展している。自然豊かな街。
- 今日のように、岡山の10年後を話しあえるようなすてきな人たちがあふれるような岡山。
- 子供のうちから、環境保全に対して一人一人が自分ごととして真剣に考えて行動できる社会になっていてほしい。
- 持続可能な社会になって環境の悪化を少しでも抑えたい。
- 次の世代も安心して暮らせる岡山であってほしい。
- 自給自足を促進し、自然豊かな環境を今以上守り育てれる団体や環境機構が増える事を希望します。
- 自然・伝統・文化等々県下各地でそれぞれの特性・国を活（生）し、各地が活々と元気に継続し、自然がまもられることがいいと思います。
- 自然と共生できる岡山に。
- 農地の宅地転用が進んでいますが、住宅が増える一方で、用水路の汚染や生態系への悪影響は確実に出てきています。岡山が栄えるということは、人の暮らしだけでなく、岡山の大切な財産である自然との共生が必要と考えます。物理的な共生だけでなく、人の価値観もそのようになっていたらいいなと思います。
- 自然と共生できる都市。
- 自然と共存できており、生物の多様性の得られた緑の町岡山。
- 自然を守り、１０年後までつないでほしい。
- 自然都市　岡山。
- 人と自然・生き物が共存し、絶滅・絶滅しそうな生き物が大幅に減り、環境問題のない、自然豊かにしたい。
- 自然豊かであまりゴミがないきれいな岡山になってほしい。
- 自然豊かで自然と共存していける場所であってほしいなと思った。
- 自然豊かな岡山であってほしい。
- みんながゴミ拾いに参加して、川のゴミなどを皆んなで無くせるような岡山であってほしい。
- 自由。
- 若い人に活気のある、岡山になって欲しい。

- 若い世代の人たちが、社会課題とも向き合いながら、新しい考えを生み出して、生き生きと生活している岡山。若い人の熱い思いを形にできるように、中高年齢層が後ろから支え、活気のある岡山になっていて欲しい。
- 周りの人と気軽に環境問題について語れる環境。
- 住みたい街。住みたい理由は人によって違ってよい。
- 住みやすくフルーツ食べ物がおいしいと言ってもらえる（県内外の方から）岡山にしたい。自然豊かな岡山にしたい。
- 出会いの場、考える場として、岡山の取り組みは必要だと思いました。岡山から他県にも広がることを期待したいです。
- 循環型社会をめざした自然農法で地産地消率をあげ、海、山、里、街それぞれが繋がる世界。
- 地域の食材を使った互いに顔の見える給食。
- 人間だけでなく、動物、植物にも優しく、環境や衣食住を安心で安全なものに切り替えた社会であってほしいです。
- 人にも環境にも優しい岡山。地産地消で心豊かな岡山。山、川、海、公園で拾うゴミがない！岡山！
- 人も自然も快適に過ごせる社会になっていて欲しいです！！
- 人や環境に優しい人であふれている岡山。
- 人を大切にする岡山であってほしい。環境を大切に、守っていく。その決意をもちました。
- 人口減少は仕方がない部分もあるが地方に活力がある岡山であって欲しい。地域の環境を守りたいと思える人が増えるよう環境学習を進めていきたい。
- 人々の健康と安全、自然環境の維持、住みやすい街へ。一人ひとりが考え行動発信して行くこと。
- 世界に誇る ESD 都市。
- 世界的にも環境教育に溢れるまち！
- 瀬戸内海の資源が多様で豊かになって、食文化が永続していてほしい。そのための行動、プロジェクトには参加し、仲間も増やすようにしていきたい。
- 瀬戸内海の豊かさを保つ岡山。
- 画期的なものができるなど今よりはいい環境になっていて　環境に対する意識レベルも上がっていてほしい。
- 生物と人とが支え合い、いつでも、いろいろな生物を見かけられるような岡山。
- 川からの流出ごみの少ない美しい瀬戸内海。その活動の奇跡を世界に紹介したい。
- 「おいしい魚がずっと食べられる瀬戸内海」。渡り鳥や、カニ、魚、様々な生き物、その一部の私たち。食べること、生きること、自然の一部としての人間と、立ち止まって今ある価値、目の前の海の恵みを大切に次の 10 年へ繋げていきたい。
- 全部改善できていないとしても、せめて、良い方向に向かっていてほしいと思う。
- 多くの方が自然の変化に気付いて欲しい。
- 多様な背景を持つ人や組織が、それぞれの強みやリソースを持ち寄り、当たり前のように連携、協力している社会。
- 大都会岡山。
- 地域の継承すべき自然や文化が、若者を中心として持続的になっているといいな！

- 地域課題の解決に取り組む若者が増える。
- 地球元気、岡山元気、みんなも元気。
- 地元の物がスーパーに並ぶ景色。
- 地産地消！
- 地産地消、地球温暖化に着目した緑豊かな晴れの国岡山県。
- 調和（人と自然)。
- 都心になってほしいのとカブトガニがもっとふえてほしい。
- 美しい岡山。
- 浜にカブトガニが沢山いて、子供達が大勢海岸で遊んでいる。
- 平和な岡山。
- 変わらず、晴れの国であってほしい。
- 暮らしやすい町世界一！！
- 豊から生態系が広がっていて海だけでなく。
- 命がある生命体が、平等によりよくくらせられる岡山。
- 戻ってきたくなるような岡山。緑がある。
- 用水路がすべてきれいな岡山。
- 陸も海も町もきれいな晴れの国岡山であってほしい。皆が笑い、支え合える岡山であってほしい。

**Q８．その他、本ミーティングへのご意見、ご要望があれば以下にご入力ください。【一部抜粋】**

- もし可能なら、分科会は、２つぐらい参加したい。
- 分科会の直前までブース展示（無人でも）をしていただけると少しでも拝見できて嬉しい。
- 終わりの時間を、16 時くらいにして欲しい。
- 分科会の時間が少し長かった。全体会は時間もうちょい長くして欲しい。
- もう少しブース展示の時間が欲しい。

## ４．まとめ

**【全体考察】**

・ 今年のミーティングは、これまで開催してきた中で最も多い参加者数を記録した（合計 298 名)。
・ アンケートによると、これまでと同様、幅広い年代・立場の方から来ていただいていることが分かった。また、回答者（204 人）の 6 割が初参加であることから、本イベントは新しいつながりの創出に寄与していることが推察される。
・ 全体的に満足度が高く、半数以上の方から 90 点以上の評価をいただいた。
・ 特に、世代を超えて交流ができたこと、学びが相互に深まり、それぞれのモチベーションにつながったという、感動が伝わるコメントも多くみられた。
・ ブース展示、分科会、全体会、それぞれ満足度が高く、参加した大人からの中高生への賛辞も多かった。
・ アンケートの回答結果を見ると、「新しいことを知ることができた」、「新しい人と知り合えた。新しいつながりを得ることができた」、「●●と活動したい、●●を取り入れたい」というようなコメントが多数見られた。これらのことから、本ミーティングが「つながりの場」、「学び合い高め合う

場」、「協働が生まれる場」になっていると思われる。

SDGs の達成においては、「行動変容」、「価値観変容」、「協働」が重要と言われているが、上記から本ミーティングが、これらの変容や協働が生まれる貴重な機会や場になっている。今後も、おかやま環境教育ミーティングを開催し続けることが、更なる環境教育の推進、持続可能な社会の実現につながっていくと確信している。

## ５．開催までのスケジュール&実施プロセス

■実行委員会等開催スケジュール

・4 月 20 日（木）17：00～19：05

第 1 回実行委員会

協議：委員長・副委員長の選出、開催目的、ゴールなど全体構成、
ブース出展・分科会

報告：今期の開催方針について、開催までの大まかなスケジュール

・5 月 1 日（月）　関係者向け（ブース出展者等）開催案内について
広報・出展者募集開始

・5 月 16 日（火）17：00～19：20

第 2 回実行委員会

協議：分科会の実施内容、会場レイアウト

報告：ゴールなど全体構成、ブース出展申込状況、開催までのスケジュール

・6 月 19 日（月）一般向け開催案内について広報、参加者募集の開始

・7 月 11 日（火）17：00～19：00

第 3 回実行委員会

協議：会場レイアウト、当日の詳細スケジュールおよび担当割り振り、分科会の企画状況

報告：申込状況

・8 月 8 日（火）10：00～17：00

第 10 回おかやま環境教育ミーティング　開催

・8 月 31 日（木）17：00～19：00

第 4 回実行委員会

協議：ふりかえり、次回の開催に向けて

報告：開催結果

■実行委員会メンバー

（実行委員）

環境団体　3 名　小桐　松本　三木

民間企業　2 名　湯場　長門

公益財団　1 名　林

博 物 館　1 名　東川

行政　　1 名　友延

学校関係　4 名（中学校教員 2 名、教育庁・教育委員会 1 名、元小学校校長 1 名）江國、三村、室、高田

合計　　12 名

（事務局及び岡山県担当者）

県担当者　3 名（岡山県 新エネルギー・温暖化対策室）

事務局　　3 名（公益財団法人 岡山県環境保全事業団）